語科では，表現力の重視が一層強く打ち出されている。この表現力重視を主題単元による総合学習の中に意図的，組織的に組み入れて，領域間の総合学習に取り組んでみたい。

次に示す指導計画は，「理解」と「表現」の関連指導を図りながら，「表現」，特に文字言語と音声言語に重点を置いた指導の試みである。

【１　「表現（文字言語）」に重点を置いた「国語Ⅰ」の指導】

1、単元設定の趣旨

(1) 母、妻、娘(養女)の三つの愛する者との永遠の訣れを通して人生を深くみつめる心を育てる。

(2) 領域間の総合化を図り、本単元では、"短歌連作を物語りに作り上げる"学習を通して表現力（文字言語）の向上に重点を置いた指導をする。

2、教　材

主　教　材	補　助　教　材	発　展　教　材
「死に給ふ母」（斎藤茂吉）	•『茂吉秀歌』(佐藤佐太郎) •『斎藤茂吉の生涯』(山上次郎)	•『作歌四十年』(斎藤茂吉) •『評伝斎藤茂吉』(柴生田稔)
「玉簾花」（吉野秀雄）	•『やはらかな心』－二人の妻－（吉野秀雄）	•『わが胸のそこひに』(吉野登美子) •『小説吉野秀雄先生』(山口瞳) •『歌人の家』(吉野壮児)
「山　鳩」（会津八一）	•『会津八一短歌とその生涯』（植田重雄）	•『石榴抄』（結城信一）

3、指導計画（総時数１５時間）

段階	時限	指　導　内　容	形態　※表現
導入	1	○この単元の学習の趣旨を知る。 ◎三つの主教材を読み、初発の感想を書く。	一斉、個人 ※表現（文字）
展開Ⅰ	2～7	○三つの教材について読解、鑑賞する。 ◇主　「死に給ふ母」 ◇補助　『茂吉秀歌』、『斎藤茂吉の生涯』 ◇主　「玉簾花」 ◇補助　「やはらかな心」－二人の妻－ ◇主　「山鳩」 ◇補助　『会津八一　短歌とその生涯』	一斉、個人
展開Ⅱ	8	◎三つの教材を学習した後の自分なりの感想を持つ。 ◎「短歌連作を物語りに作り上げる」学習として取り組みたい教材を各自選択する。 ○感想と選択をもとにグループ編成する。	個人 ※表現（文字）
	9～13	◎グループごとに、選択した短歌連作を物語りに作り上げる。 •発展教材を提示する。 •グループごとに一作品を仕上げる。	グループ 個人 ※表現（文字）
まとめ	14～15	○出来上がった作品を、グループの代表者が全体に発表する。 ○グループごとに仕上げた作品をまとめて文集を作成する。	グループ 個人 ※表現（音声）

【２　「表現（音声言語）」に重点を置いた「国語Ⅱ」の指導】

1、単元設定の趣旨

(1)『源氏物語』若紫巻の「小柴垣のもと」と『吉野葛』に共通する垣間見の場面から、いつの世も変わらない実母思慕という人間の性について考える。

(2) 領域間の総合化を図り、本単元では"語り"や"朗読"などの音声言語を通しての表現力の向上に重点を置いた指導をする。

2、教　材

主教材	①『源氏物語』－若紫の巻－「小柴垣のもと」（紫式部） ②『吉野葛』（谷崎潤一郎） ③「『源氏物語』を語る立場から」（関弘子） ④『ことばのしらべ』－しん女語りぐさ－（浜田寸躬子）
補助教材	①『源氏物語』カセットブック（関弘子） ②『しん女語りぐさ』の浜田寸躬子の"語り"の録音
発展教材	①生徒自身が自分で朗読してみたいと思う本を用意する。 ②語り、朗読、群読等によく用いられる作品のリストアップ。

3、指導計画（総時数１７時間）

段階	時限	指　導　内　容	形態　※表現
導入	1	○この単元の学習の趣旨を知る。 •語りや朗読についての経験やそれについての自分の考えを書く。	一斉、個人 ※表現（文字）
展開Ⅰ	2～9	○主教材①、②について学習する。 ◇『源氏物語』－若紫巻－「小柴垣のもと」 ◇『吉野葛』 ◎①、②に共通するモチーフ「実母思慕構造」をとらえ、それに対する自分の考えを書く。	一斉 個人 ※表現（文字）
	10～12	○主教材③、④について学習する。 ◇「『源氏物語』を語る立場から」 ◇『ことばのしらべ』－しん女語りぐさ－ ◎語りや朗読などの音声言語による表現の意義を理解し、自分なりの考えを持つ。	一斉 個人 ※表現（文字）
展開Ⅱ	13～16	◎主教材①、②をどう朗読したらよいか、グループごとに根拠をもった工夫をする。 •作品の内容を考えた朗読の工夫 •カセットブックや録音テープの活用 ◎グループの代表が朗読しあう発表会を設ける。 ◎一人一人が自分の好きな作品を選び、朗読の仕方を工夫した発表会を設ける。 •発展教材の提示	グループ 個人 ※表現（音声） 一斉 個人、一斉 ※表現（音声）
まとめ	17	○語りや朗読などの音声言語による表現に実際に取り組んでみての感想を書く。	個人 ※表現（文字）

5. まとめ

「国語Ⅰ」の「大津皇子」から，「国語Ⅱ」の「旅」の実践を通して，教材間の総合学習は概ねよい評価を得た。一歩進めて，教材化の工夫とともに，領域間の総合学習として「表現（文字言語，音声言語）」を重視した指導計画を作成してみた。機会をとらえて実践したいと考えている。

日に日に複雑な様相を呈してくる現代社会にあって，国語科の学習は，単なる知識の獲得に終わるのではなく，生徒自身の生きる力となって働く思考力，認識力として身につくものであることが要求されてきている。そのためには，幾つかの教材を，明確に意識された主題単元の中に位置づけて学習していく総合学習が，かなり有効な方法の一つであると考えられる。

参考文献

- 『高等学校学習指導要領解説―国語編』（文部省）
- 『高等学校国語科指導資料―「表現」の学習指導―』(文部省)
- 『高校国語　新しい授業の工夫20選』（大平浩哉編）
- 『国語科研究紀要』第13号（広島大学付属高校国語科）